

【草花の部屋】

カタバミ (カタバミ科カタバミ属 Oxalis corniculata)

和名：カタバミ（片喰、酢漿草、傍食）

別名：鏡草（かがみぐさ）、酸葉（すいば）他

英名：Wood sorrel、Creeping woodsorrel

カタバミ目 多年草

原産地：南アフリカ、アメリカ

花言葉：輝く心、喜び、母の優しさ

花の色：白、黄、桃、紫



← 写真-1 カタバミ

撮影日：2019年02月27日

撮影場所：ロカ岬(ポルトガル)にて

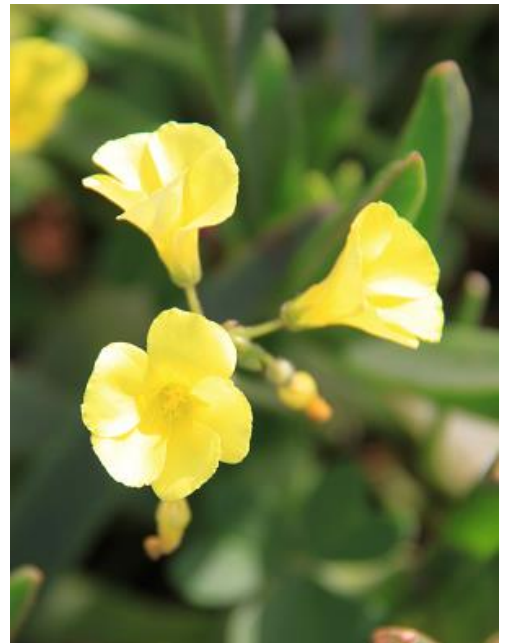
撮影者：M さん

↘ 写真-2 カタバミの花

撮影日：2019年02月27日

撮影場所：ロカ岬(ポルトガル)にて

撮影者：M さん



← 写真-3 カタバミの葉

撮影日：2019年02月27日

撮影場所：ロカ岬(ポルトガル)にて

撮影者：M さん



← 写真-4 カタバミの群落

撮影日：2019年02月27日

撮影場所：ロカ岬

(ポルトガル)にて

撮影者：M さん

ユーラシア大陸西端の地、ロカ岬で見かけました。駐車場から最西端の碑とカモンイスの句碑に続く遊歩道の周囲に群生していました。広い範囲の群生は綺麗でした。

カタバミの名の由来は、葉が睡眠運動をし、夕方になって閉じると一方が欠けているように見えるところからだそうです。

多年草で、球根の下に大根のような根を下ろし、匍匐茎をよく伸ばし、地表に広がるため繁殖が早く、しかも根が深いので駆除に困る雑草だそうです。

葉は球根の先端から東に出るハート型の3枚が尖った先端を寄せ合わせた三出複葉ですが、頂小葉と側小葉の区別はつきづらい。マメ科のクローバーと似ていますが、クローバーは葉の形状が丸く白い線があり、全く異なる植物です。しかし、ロゴマークなどで葉の形状を誤解してハート型で描いたため、クローバーのつもりでカタバミとなっているケースもあるそうです。カタバミにもクローバーと同様に、四葉、六葉といった多葉変異体が発生するそうですが、発生率はクローバーと比べて低いそうです。

春から秋にかけ5弁の黄色の花を咲かせます。日向では花が開きますが、日陰では、萎んでしまうのが大きな特徴です。

果実は円柱状で先が尖り、真っ直ぐに上を向いて付き、成熟時には動物などが触れると、自ら赤い種子を勢いよく弾き、1m程度までの周囲に飛ばすことができるそうです。

乾燥した場所に多く、葉の色が赤紫色を帯びたアカカタバミ、葉の表面や茎にも毛が多いケカタバミや、似たものに茎が立ち上がる帰化植物のオッタチカタバミがあるそうです。

カタバミは日本全土で見られるため、地方によって色々な呼び方があるそうで、上記別名の他に「しょっぱぐさ」、「すずめぐさ」、「ねこあし」、「もんかたばみ」などがあり、「日本方言大辞典」には180種以上が記録されているそうです。

また、カタバミを図案に用いた片喰紋・酢漿草紋（かたばみもん）は日本の家紋の「五大紋」の一つに数えられているそうです。繁殖力が強く、一度根付くと絶やすことが困難なことから、「(家が)絶えない」に通じ、武家の間では、家運隆盛・子孫繁栄の縁起担ぎとして用いられたそうです。

< ちょっと一言 >

五大紋

- ・ 鷹の羽紋：
鷹の羽を図案化したもの。
- ・ 片喰紋、片喰(酢漿草)紋：
カタバミを図案化したもので子孫繁栄の願いを込めた紋。
- ・ 木瓜紋：
瓜の切り口や瓜そのものを図案化したものとする説や鳥の巣とする説などの見解や説が幾つかあるそうです。
- ・ 藤紋：
藤の花や葉を図案化したもの。
- ・ 桐紋：
桐の花及び葉を図案化したもので、元々は菊紋と共に皇室の用いた家紋だそうです。